

## 市街地商店出入り口と路線バス運行路確保にて環境配慮

長野県土木施工管理技士会

藤森土木建設(株)

土木部主任

伊藤 晃 士<sup>○</sup>

Kouji Itou

土木部

久保 貴 紫

Takasi Kubo

土木部

三井 三 貴

Mitsuki Mitsui

## 1. はじめに

市街地における、電線共同溝地中埋設工に伴う歩車道街路整備工事です。

その中で、先に片側工区は市街化整備商店移動等の街路区画整備がほぼ完成しており、この工事にて片側を県道用地内で区間内整備すれば、抜柱にて、共同溝地中埋設において市街化整備完了となる工事です。

工事概要 駅前整備電線共同溝地中埋設街路整備工事に伴う県道街路工事  
道路築造 電線共同溝工L = 193.04m  
歩道工L = 262.25m

## 2. 現場における問題点

先に片側街路工区は、市街化整備としての商店等を移動整備し、電線共同溝の地中埋設に伴う街路区画整備と、県道歩道車道の半分が、ほぼ完成しており、それに伴いこの工事にて既存側半分の県道用地内に歩車道を整備する工事である。

元々既存側半分は歩道が無く、水路からフラットにて出入していた沿線商店であり、居住しながら営業している為、お客様の出入りを含め日々の車両及び歩行者への、段差のない通行と安全管理を考えた施工管理でなければいけない。

又、駅前であることから、歩車道内に数ヶ所大

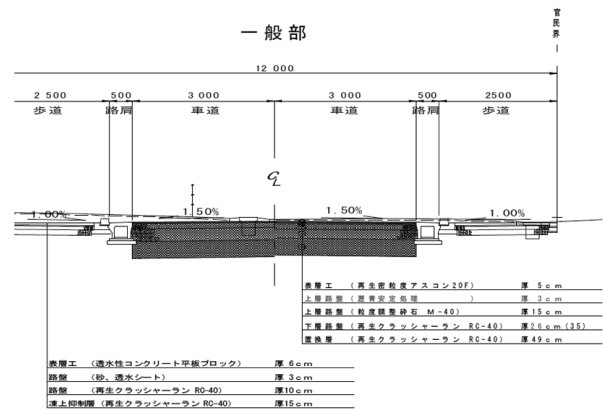


図-1 県道街路工事施工横断面図  
道路片側の電線共同溝及び、車道歩道整備段差又環境配慮型二次製品水路位置

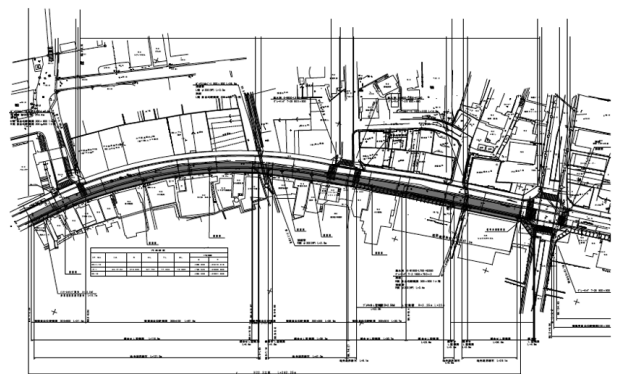


図-2 道路片側の電線共同溝街路施工平面図  
道路片側の電線共同溝及び、車道歩道整備段差又環境配慮型二次製品水路位置

型電線共同溝ボックスをセットするにあたり、一日でも通行止めに来れないことを関係機関から要望されていた。また路線バス等の発着点であり、

路線バス通行を考慮した交通規制を検討しつつ整備しなければいけない。

また地元への景観と環境対策に配慮した機種の選定と、環境リサイクルに配慮したプレキャスト製品を積極的に採用していく旨地元説明会にて打ち合わせた。

### 3. 工夫・改善点と適用結果

電線共同溝の大型ボックスを車道部へ設置に当たっては、商店の出入り及び路線バスの通行路の変更が出来ないことから、高炉セメントを使用したプレキャストの敷板をあらかじめ工場製作しておき、夜間施工となるので、住民に配慮して防音型でまた労働者にも優しい防振動器付きのランマーを使用して埋戻しを行った。

日々9時間以内には、即日復旧しバス等車両及び、歩行者通行の妨げにならない様施工管理に工夫を行った。

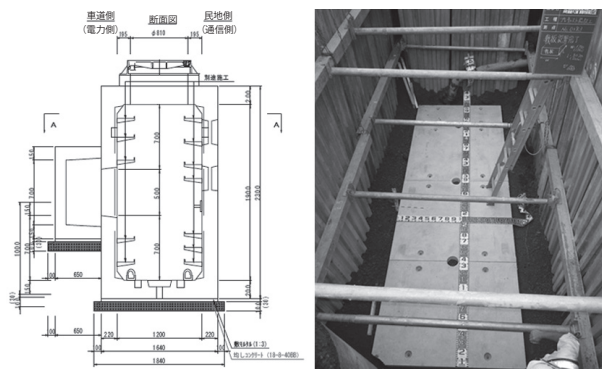


図-3 大型共同溝ボックスプレキャスト版敷設状況



図-4 商店出入り口車両と歩行者への段差解消視認性確保

各商店に於いては、工事期間中日々のお客さんの出入りを始めとした車両出入りにも、交通障害にならない重量物用ゴム製スロープマットにてズレ止め防止および段差解消と、完成後の歩行者通行を考慮した反射板埋め込み用プレキャスト製品にて視認性の確保を行った。

又既存構造物への汚れ等無い環境対策として、舗装工における、タックコートには、速乾性に優れたアスファルト乳剤を使用し車両タイヤにより既存構造物を汚さず綺麗な状態にて、維持管理しながら街路工事を行う様に工夫を行った。



図-5 既存街路を汚す事無く環境配慮した施工状況

歩車道境界ブロックを、環境に配慮した信州リサイクル品であるコンクリートに、ガラス瓶に再生できないガラスカレットを粉砕しエッジを除去したものを細骨材の一部として配合(10%)した二次製品を使用することによって、環境保全に努めている現場であるとのアピールを図った。



図-6 ガラスカレット骨材使用したリサイクル二次製品

### 4. おわりに

適用条件、採用時の留意点

開放後路線バスを始め一般車両通行及び、各商店のお客様出入りでも段差障害無く、車両と歩行者の交通障害も確認されなかった。また環境に配慮した工事であるアピールも出来た。